M I E N
N A K A O

中尾 美園

1980 大阪府生まれ

2006 京都市立芸術大学大学院
美術研究科保存修復専攻 修士課程修了

〈主な展覧会歴〉

2006 「京都市立芸術大学大学院修了制作展」
（大学院市長賞）京都市美術館（京都）

2008 「京展」（館長奨励賞、'09年須田賞・芝田記念賞）
京都市美術館（京都）
個展「One Day We'll Fly Away」ギャラリー i（京都）

2013 個展「いつかの庭」KUNST ARZT（京都）
「シェル美術賞展」国立新美術館（東京）

2014 個展「山水」ギャラリー揺（京都）

明日香村は、時間の流れを否応なく考えさせられる強烈な個性を持った土地でした。道端に置かれた意味ありげな石と横に並んだ標識、田んぼの中に点在する小さな丘。田舎道のきれいな舗装道路を走る耕運機。寺社に置かれた慰霊碑。今でも飛鳥時代の人物を拝む講があるという風習。道端で出会った方は、「村の風景が変わっていくことは良いような悪いような…わからへんなー。そんでも私の様な年を取った者は、昔が懐かしい時もあるな。」と。
作品は満開になった紅白の梅の下に、白い石ころと陶片を無数に散りばめました。陶片の一枚一枚に村の過去現在の風景を描いています。時間は線ではなく、欠片として降り積もってゆくイメージです。過去は古文書や、発掘された考古資料によって断片的に想像するしかありません。今ある風景も未来では欠片となり、最後は分別のつかない石ころのようなものになるかもしれません。未来でも梅が綺麗に咲いているといいなと思います。

《コノハノテガミ アスカ》 白玉砂利、陶片 ［陶片制作協力：野嶋 信夫］